経済産業大臣指定
伝統的工芸品

岐阜和傘

岐阜市加納を中心に江戸時代から生産されてきた岐阜和傘。
現在もほぼ手作業で作られており、日本一の産地となっています。
岐阜市の伝統工芸品の一つである岐阜和傘の種類や歴史、
優れた技術などをご紹介します。

和傘の種類

番傘

17世紀後半に大坂で作られた「大黒傘」が元となり、印や判を傘に入れて用いたことから「判傘」→「番傘」となったと伝えられています。

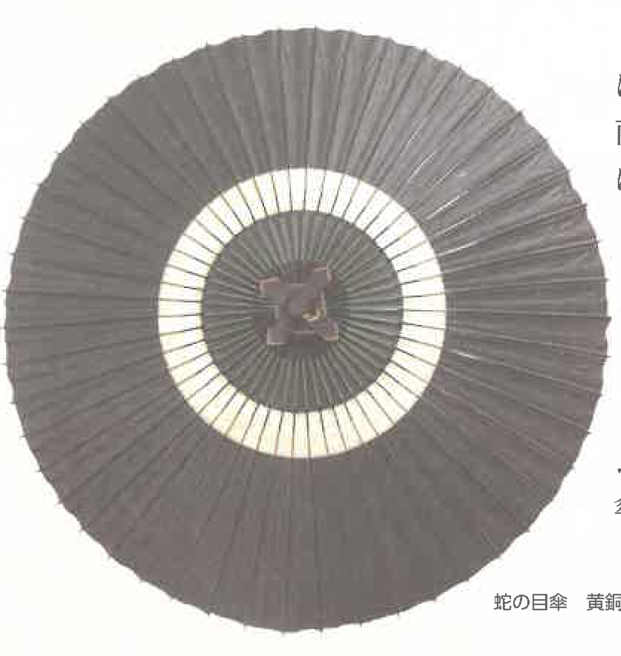
手元の籐や小骨のかがり糸などの装飾は施さず、柄も太い竹を用いるなど、シンプルで丈夫な作りの雨傘です。

番傘　西部商店

蛇の目傘

小骨に飾り糸を付け、柄の手元に籐を巻き、細く軽く仕上げられた雨傘です。蛇の目傘の名前の由来は、中央の白い輪（中張）が蛇の目のように見えることとされていますが、実際には様々な模様の蛇の目傘があります。

『守貞謾稿』では、「元文（1736～41）以来、傘専ラホソク、軽キヲ良トス」とされ、江戸では細く軽い傘ほど上等なものとされていました。


蛇の目傘　黄銅錦揚

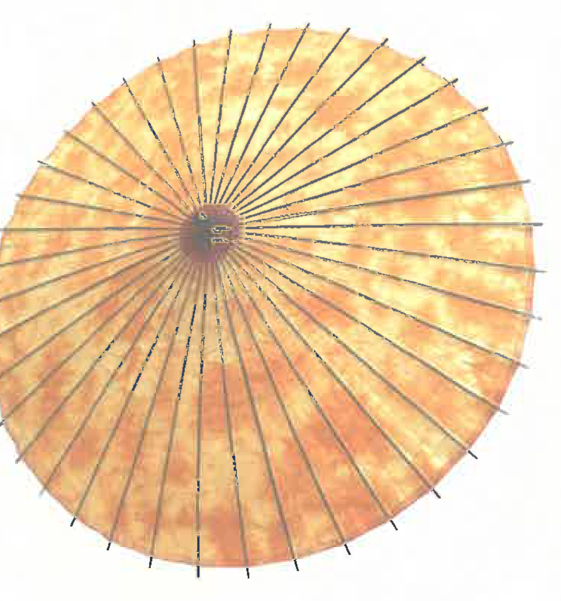
差し掛け傘

差し掛け傘

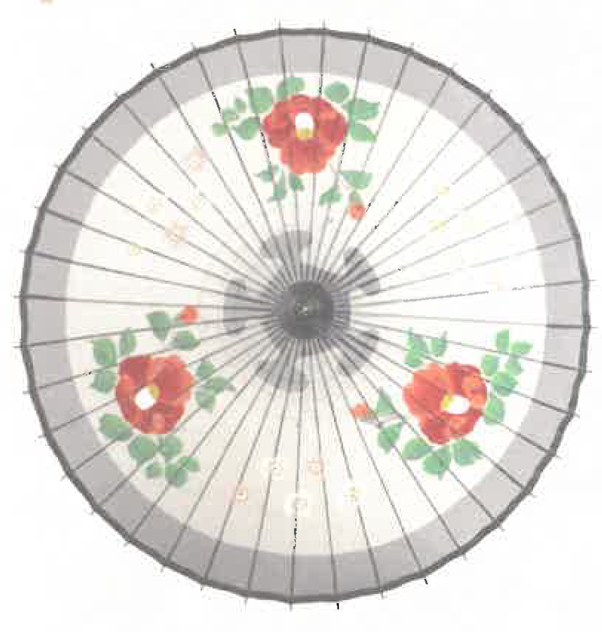
身分の高い人へ従者が差し掛ける日除けの傘を、「差し掛け傘」と言います。1人で使う傘と比べると、柄が長く、傘の径も大きい点が特徴です。

日傘

晴天時に日差しを遮るために使われた傘であり、大きさは蛇の目傘より小ぶりです。雨傘とは違い、頭轆轤に頭紙が付いておらず、傘紙には油を引いていません。


日傘　絞り染

舞踊傘



日本舞踊などに使用される傘です。演者の顔がよく見えるように柄が長いものが多く、和紙を張ったもののほか、絹を張ったものもあります。

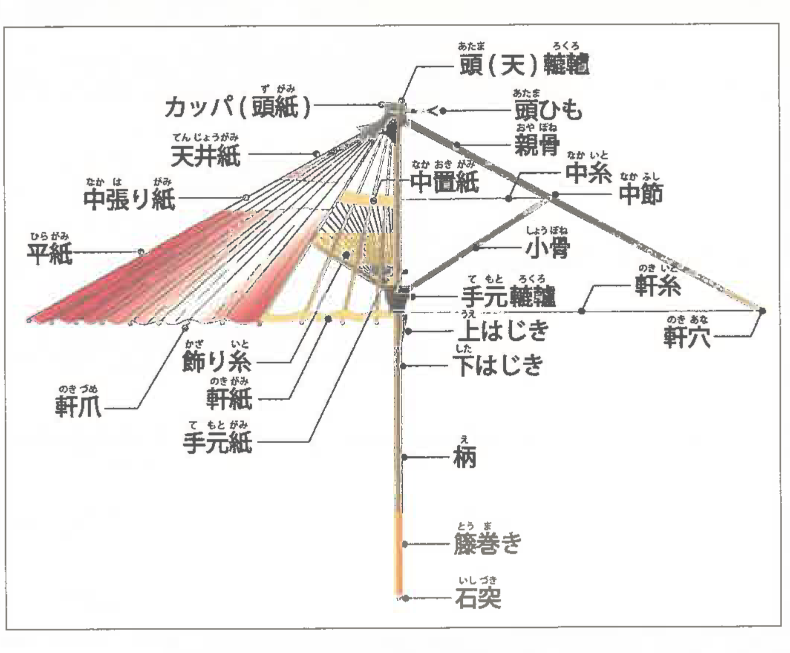
舞踊傘　絹描絵　椿に梅

野点傘

野点傘

屋外にて日除けに使われる大傘です。親骨の軒先を内側に折り曲げていますが、これを妻折（爪折・端折）と呼びます。手元轆轤も大きいため左右一対のハジキをつけて轆轤を受けとめるものもあります。

和傘の構造
（蛇の目傘）


頭（天）轆轤
カッパ（頭紙）
頭ひも
天井紙
親骨
中置紙
中糸
中節
中張り紙
平紙
小骨
手元轆轤
軒糸
上はじき
軒穴
下はじき
飾り糸
軒紙
軒爪
手元紙
柄
籐巻き
石突

岐阜和傘の歴史

岐阜和傘は岐阜市加納を中心に生産されてきました。その始まりは、寛永16年（1639）松平（戸田）光重が明石藩から加納へ移封される際に、傘職人を連れてきたことだといわれています。

その後、宝暦6年（1756）永井尚陳が加納藩主になった際、下級武士の生計を助けるために和傘づくりを奨励しました。文政9年（1826）には和傘を加納藩の専売品とし、江戸や大坂等の市場へ積極的に販売しています。

明治時代になると海外でも高い評価を得るようになり、昭和20年代中ごろには、和傘の出荷本数は最盛期を迎えます。

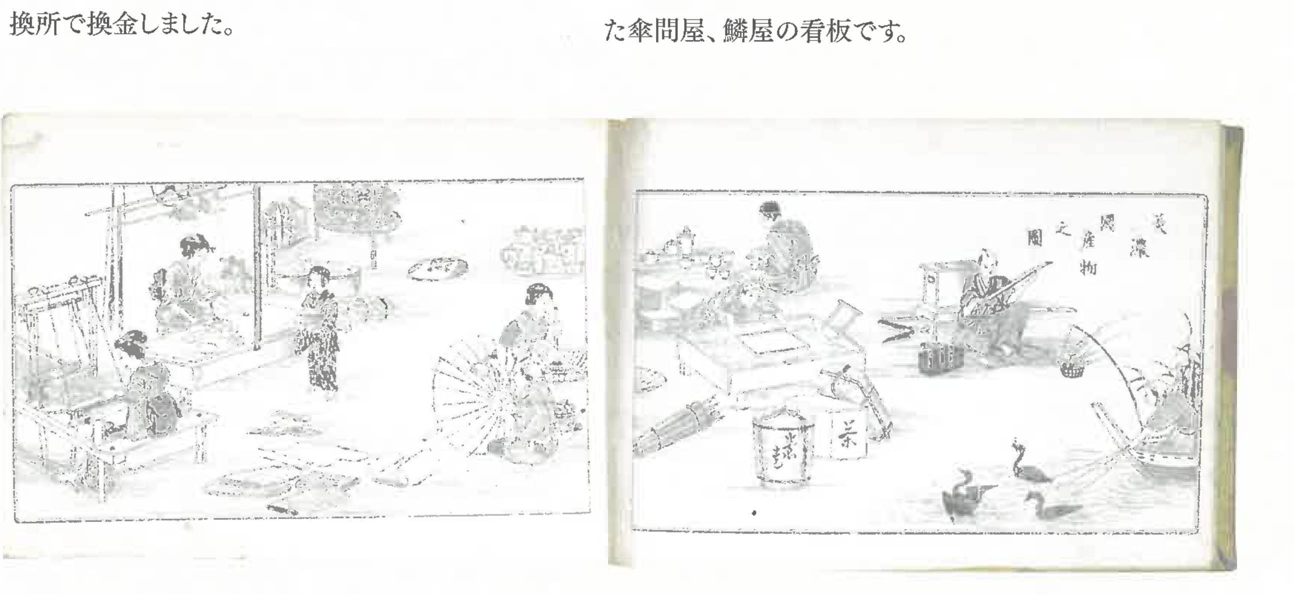
その後洋傘の普及に伴い、和傘の生産は減少しましたが、様々な種類の和傘が作り続けられ、現在も日本最大の産地となっています。

傘札（傘一本札）　安政7年（1860）

加納藩が傘専売制を強化するために発行した藩札です。傘を仕入れる際に、現金と共にこの札が使われ、藩が設置した引換所で換金しました。

鱗屋看板　明治時代

江戸時代から戦後まで、岐阜市靭屋町で営業していた傘問屋、鱗屋の看板です。

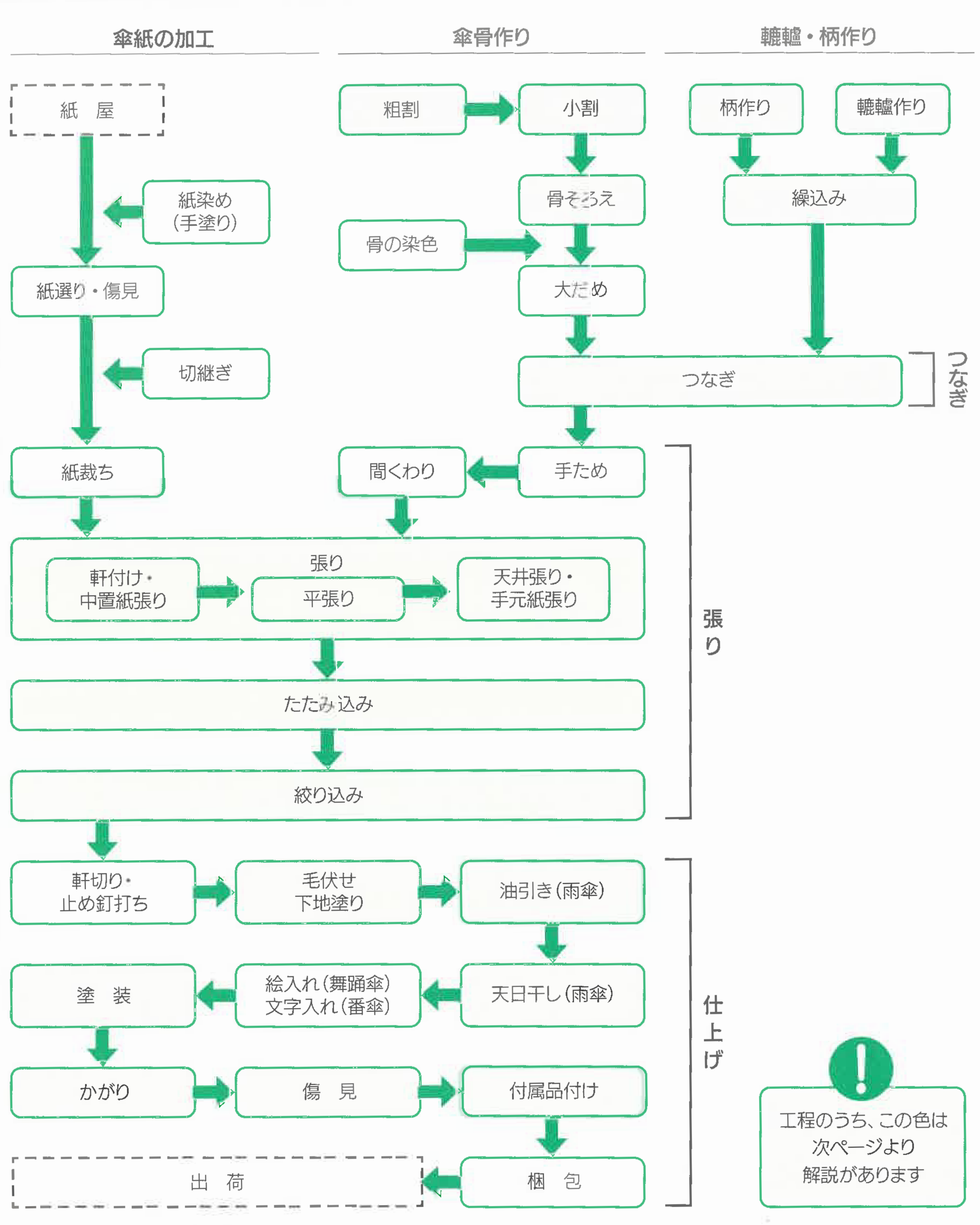


美濃国産物之図（『美濃の魁』所収）　明治16年（1883）

『美濃の魁』は美濃地方の商工業者案内書です。特産品を紹介した口絵で、岐阜の鵜飼や関の刃物、養老の酒、揖斐茶などが紹介されており、中央には加納の和傘づくり（張り、かがり）が描かれています。

岐阜和傘ができるまで

和傘の製作は大きく分けて傘骨作り、轆轤・柄作り、つなぎ、張り、仕上げの工程があります。一般的な轆轤作りを除き、ほとんどの工程は現在も手作業で行われており、江戸時代以来の伝統を今に伝えています。また、岐阜和傘では、各工程を専門の職人が担当し、問屋が検品して販売する「分業制」で作ることが特徴で、これにより、大量生産と品質の向上が図られてきました。


傘紙の加工
傘骨作り
轆轤・柄作り
紙屋
粗割
小割
柄作り
轆轤作り
紙染め（手塗り）
骨そろえ
繰込み
骨の染色
紙選り・傷見
大ため
切継ぎ
つなぎ
つなぎ
紙裁ち
間くわり
手ため
張り
軒付け・中置紙張り
平張り
天井張り・手元紙張り
張り
たたみ込み
絞り込み
軒切り・止め釘打ち
毛伏せ下地塗り
油引き（雨傘）
塗装
絵入れ（舞踊傘）文字入れ（番傘）
天日干し（雨傘）
仕上げ
かがり
傷見
付属品付け
出荷
梱包
工程のうち、この色は次ページより解説があります

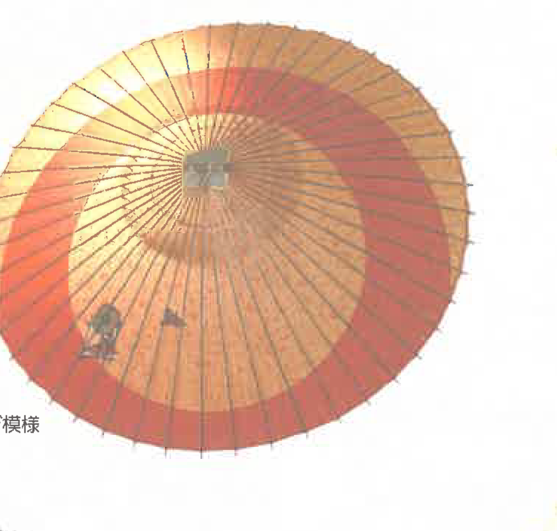
岐阜和傘の技と美

和傘には多くの装飾技術があります。例えば骨の加工、切継ぎなどの傘紙の加工、特殊紙などの使用、かがりの色や種類、塗装の仕上げ方法などが挙げられます。岐阜では、これらの装飾技術が多数受け継がれてきました。

また、岐阜和傘の特徴は、蛇の目傘や日傘などの細物を得意としていることです。他の産地と比べても、たたんだ時の姿が細く美しく収まります。

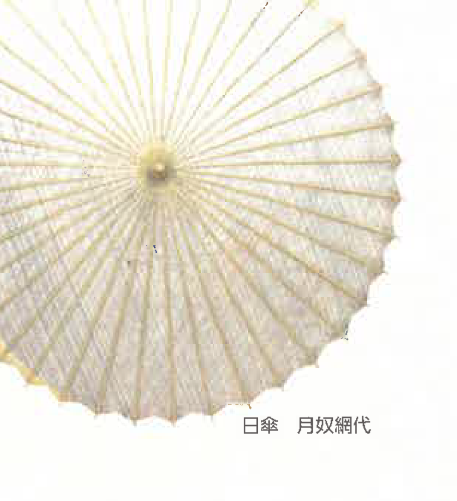
切継ぎ

図柄に合わせて異なる色やデザインの傘紙を切り抜き、それを継いで模様を作る技法です。

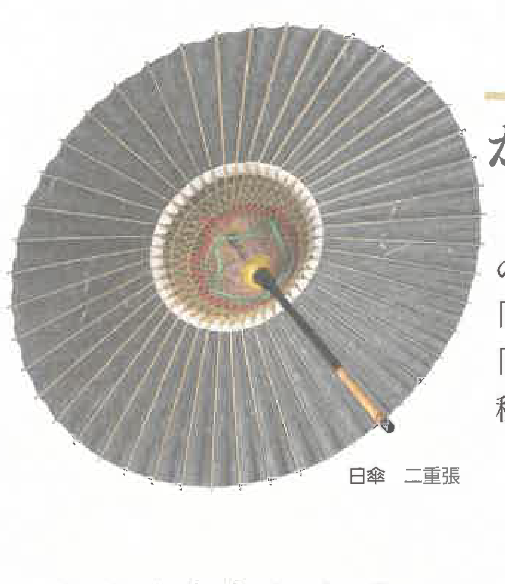

蛇の目傘
四八　切継ぎ模様

網代

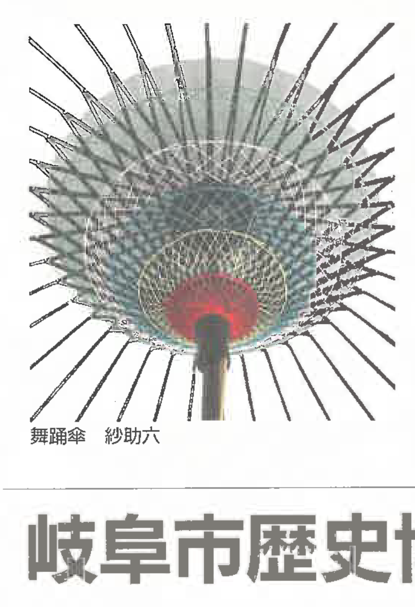
軒糸2本を骨の間ごとに交差してかけ、軒糸に沿って平紙の先を谷形に折り込む技法です。

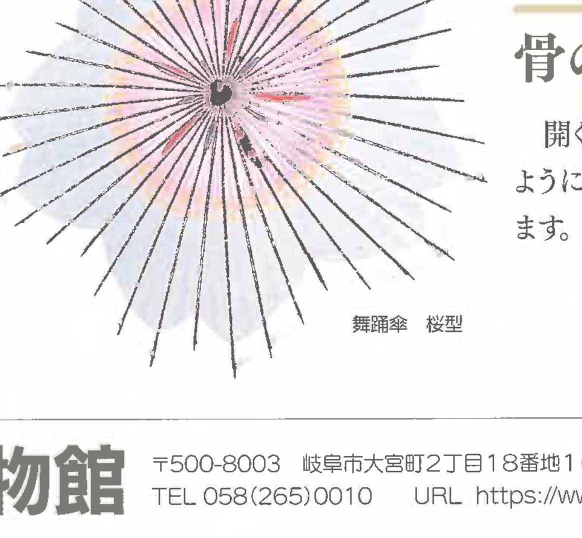

日傘　月奴網代

かがり


日傘　二重張

単純な形の「棒飾」のほか、「一つ網（霞）」「二つ網」「三つ網」「桔梗網」など様々な種類があります。


舞踊傘　紗助六


舞踊傘　桜型

骨の加工（桜型）

開くと桜の花びらの形になるように、親骨の形を調整しています。

岐阜市歴史博物館
〒500-8003　岐阜市大宮町2丁目18番地1（岐阜公園内）
TEL 058(265)0010　URL https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/